

科 目	数学 I	単 位 数	3 単位	年 間 授 業 時 間	105 時間
対 象 学 年 ・ ( 組 )	1 年	使用教科書(出版社)	数研出版		
	必 修	副 教 材 等	Study-Upノート 数学 I		

教 科 担 当 者

指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標【年間授業計画】	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標【年間授業計画】	指導内容 【年間授業計画】	具体的な指導目標【年間授業計画】	
4 月	整式の加法・減法	文字を含む式の加法・減法を復習する。	関数とグラフ	1 月	三角比	鋭角の場合について、正弦、余弦及び正接の意味を理解する。
	整式の乗法	中学校で学習した簡単な一次式の乗法や乗法公式を用いる簡単な式の展開を復習する。			三角比の相互関係	鋭角について、正弦、余弦及び正接を直角三角形の辺の比と角の大きさとの間の関係を理解し、身近な事象とも関連付けてそれらの意味を理解させる。
	因数分解	式の展開及び因数分解を扱い、式を目的に応じて変形したり、式を見通しをもって扱ったりすることができるようにする。	2 次関数のグラフ	三角比の拡張	鋭角の三角比についての相互関係を扱い、三角比の値のいずれか一つが決まれば、他の三角比の値を計算できることを理解する。	
					三角比の相互関係や三角比を鈍角まで拡張する意義を理解する。	
5 月	実数	数の体系を実数まで拡張する意義に気付かせ、数の概念についての理解を深める。	2 次関数の最大・最小	2 月	正弦定理	正弦定理の図形的意味を理解し、三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから正弦定理を利用できるようにする。
	根号を含む式の計算	無理数の計算に関しては、簡単な無理数についてその四則計算ができるようにする。簡単な無理数の四則計算として、無理数の加法及び減法、乗法公式などを利用した乗法、分母が二項程度までの分数の分母の有理化をできるようにする。			余弦定理	余弦定理の図形的意味を理解し、余弦定理を利用して、三角形の辺の長さ、角の大きさを求められるようにする。
	不等式の性質	不等式の中の文字や不等式の解の意味を理解する。	2 次関数の決定	正弦定理と余弦定理の応用	余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。	
			2 次方程式	三角形の面積	三角形の面積を、決定条件である 2 辺とその間の角または 3 辺から求めることができる。	
6 月	1 次不等式	不等式が大小関係についての条件式に表したものであり、この条件を満たす変数の値の集合が不等式の解であることを理解する。	2 次方程式	3 月	データの整理	度数分布表、ヒストグラムについて、理解する。
	絶対値を含む方程式・不等式	不等式の解がどのように定まるかということについては、xにいろいろな数値を代入して確かめたり、数直線と対比させたりしながら、解の存在する範囲を理解する。			データの代表値	平均値、中央値、最頻値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。
	集合	集合について学習することにより、数学的な表現の基礎を身に付け、数学の内容をより深く厳密に扱うことができるようにする。	2 次関数のグラフと x 軸の位置関係	データの散らばりと四分位数	四分位範囲の定義やその意味を理解し、それを求め、データの散らばりを比較することができる。	
	命題	命題について学習することにより、数学的な表現の基礎を身に付け、数学の内容をより深く厳密に扱うことができるようにする。		分散と標準偏差	分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。	
7 月	命題と条件	命題と条件について学習することにより、数学的な表現の基礎を身に付け、数学の内容をより深く厳密に扱うことができるようにする。			データの相関	相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解する。
	命題とその逆・対偶・裏	命題の逆の定義と意味を理解して、それらの審議を調べることができる。	2 次不等式		【評価の観点・方法】	
	命題と証明	対偶、背理法を理解し、命題を証明できるようにする。			【評価の観点】 教科書の問題を黒板に出して解くことを通して、内容を理解できているか。	
	関数とグラフ	2 つの数量の関係を式で表現できる。			【評価方法】 考査の得点に加えて、授業中の態度、提出物、出席状況で評価する。	